県立広島大学収受
第　　号
'20.12.25
処理期限　月　日
分類記号　保存年限

別紙様式４（表面）

所　信　表　明　書

公立大学法人県立広島大学
理事長選考会議議長　様

県立広島大学学長候補者の選考対象者となるに当たり，次のとおり所信を表明します。

令和２年１２月２５日

氏　名　藤井　保

「次の百年に繋がる県立広島大学の確かな基盤の構築」

１　将来ビジョンと推薦受諾の決意

令和２年，県立広島大学は建学百周年の節目を迎えました。時を同じくして，平成 27 年度から多くの教職員や学外有識者の協力を得て進めてまいりました学部等再編の取組の成果として，地域創生学部地域創生学科と生物資源科学部地域資源開発学科・生命環境学科が新設されました。また，保健福祉学部では令和３年４月に，再編後の新たな学科として保健福祉学科がスタートすることになりました。この再編に併せて，本学は全学の人材育成目標として「課題探究型地域創生人材の育成」を掲げ，新設教育課程による学生の学修成果を可視化し，その成果を高等学校関係者や企業等の地域社会に明確に届けることにより，本学への志願者や求人の増加に繋がる好循環の創出と本学の基本理念である「地域に根ざした県民から信頼される大学」の深化を目指しています。具体的には，本学での学びを卒業時や卒業後に高く評価してもらえる大学，一方，企業等の地域社会からは卒業生に対して，従来からの「まじめ・礼儀正しい」などの評価に加えて，「主体的に考え行動できる」，「リーダーシップが発揮できる」といった主体性や積極性，行動力などを評価していただける大学を目指すものです。これらの評価を最大限に高めることを通じて，多くのステークホルダーの理解と支持をいただける大学が実現するものと考えます。

新設学部・学科の姿は，平成29年７月に法人として決定した『「地域に根ざした，県民から信頼される県立広島大学」であり続けるための学部・学科等の再編について』において示された５つの基本的な視点，①地域が求める人材の育成，②大学教育の質的転換，③高大接続・連携の重視，④教員組織等の見直し，⑤限られた財源の中での大学運営資源の最適化，を踏まえて具体化されたものです。上述の学部等の新設により，学生に教育を提供する枠組は新たなスタートを切ることができましたが，５つの視点で示された課題が全て解決できたわけではなく，本学は大学改革の起点に立ったにすぎません。今後とも，この教育改革・大学改革の方向性を堅持し，関係の取組を着実に推進する必要があります。

新型コロナウイルス感染症がパンデミックの様相を呈する中，法人としては，叡啓大学の開学により１法人２大学体制の下で新たな歩みを始めます。もとより，地方の人口減少・流出，大学間競争の激化など，大学を取り巻く環境は更に厳しさを増してきており，今後とも受験生に選ばれる大学，将来にわたって地域の発展に寄与する大学であり続けるためには，大学が自らの責任で本学の諸活動について点検・評価を行い，その結果を基に改革・改善に努め，その質を自ら保証する内部質保証の取組を強化する必要があります。私は，こうした取組，大学がその教育目的を達成するために行う管理運営（教学マネジメント）を推進・継続することで，次の百年に繋がる確かな基盤を構築することができると確信しています。

そして，その実現には学内のガバナンス強化が不可欠です。危機とも言えるこの局面を打開するために

は，教職員自身も真摯に問題と対峙し，状況を冷静に見極めた上で，変えるべきこと，新たに対応すべきことに，チャレンジ精神を持って時機を逸することなく行動を起こしていく，まさに学生に求める人材像を教職員一人一人が実践していく，そのために学長自身も必要な判断を迅速に下し強いリーダーシップを発揮していく覚悟が必要であると考えます。

私は，平成15年に県立広島女子大学の教学部長を拝命して以降，本日まで，18年間にわたり教学部門の統括，法人評価・認証評価受審対応，学部等再編推進業務の統括などを担ってきました。これらの経験を生かし，本学の発展に資する確かな基盤の構築に貢献すべく，学長選考対象者としての推薦を受諾することといたしました。

2　基本方針と主な取組

課題探究型地域創生人材の育成を通して，地域創生の一翼を担う，実践力のある人材の育成を目指します。その実現のため，地域・ひろしまを学びのフィールドとして最大限に活用した「教育」に重点を置き，教育の質の向上や広島県や地域・社会の課題解決に資する「研究」及び大学資源の地域への提供を通じた「地域貢献」を３本の柱とした大学運営に誠実に取り組むことを基本方針とします。

(1) <u>教育と学生支援</u>　学部等再編に併せて，令和２年４月に全学的な教学マネジメントの推進主体となる高等教育推進機構が設置されました。同機構とその中に設置された教学IR推進室が各部局等と連携して進める学修成果の可視化（ルーブリックや外部評価テストの活用，学生へのフィードバック等）や教育改革の取組（教育プログラムの自律的・持続的な改善・改革や入試制度改革等）を推進します。また，新設科目「地域協働演習」，「地域課題解決研究」の開講・運営環境の整備を教職協働で進めます。

大学院については，総合学術研究科に関する中期目標の変更を受けて，保健福祉学専攻の課程の高度化や学部等再編を踏まえた専攻の再編等に着実に取り組みます。また，経営管理研究科における人材育成については，本年度受審している認証評価の結果も活用し所要の改善に努めます。

また，現下の厳しいコロナ禍は複雑で予測困難な社会変化を現実のものとし，高校生や在学生（既設学部を含む）の学びの環境をも直撃していますが，学びを諦めない，学びを止めないための，物心両面のきめ細かな支援を強化・推進します。

(2) <u>研究</u>　本学の基本理念にある「地域に根ざした高度な研究」を支援する基本研究費の配賦や重点研究事業費の活用，並びに産学官連携や科学研究費助成事業への応募の奨励により，教員の研究力の維持・向上に努めます。重点研究事業の学長プロジェクトでは，ウィズ・コロナやコロナ後，更にはスマート社会（Society 5.0）を見据えたオンライン教育の質を高める研究や教材の開発，オンライン交換留学の導入等に資する広島や本学への関心維持に有効な教育コンテンツの開発等を推奨します。

(3) <u>地域貢献</u>　地域基盤研究機構やプロジェクト研究センターを含む学内の人的・知的資源を多面的に活用できる基盤づくりについて，コロナ禍での運営方法を工夫しながら，広島県や県内市町，企業，非営利団体等の多様な主体との連携を継続し，地域課題の解決や地域の活性化に取り組みます。

生涯を通じた学びの場の提供については，既にオンライン・オンデマンド開講への変更が進められ，従来よりも広域から視聴できる利点も認められています。引き続き，幅広い年齢層の社会人の学び直しやキャリアアップを支援する，質の高い教育プログラムの開発・提供に努めます。

(4) <u>経営管理</u>　法人収入の６割以上が広島県からの運営交付金に依存していることを踏まえ，人的資源，施設整備など大学運営資源の最適化を図る必要があり，外部資金の更なる獲得に加え，用途を明示した独自の基金の創設を含めて財政基盤の強化に取り組みます。併せて，理事長と連携して，１法人２大学体制における効果的・効率的な運営を実現するとともに，全学的なガバナンスの確立，優れた教職員の確保，自己点検・評価結果の活用，戦略的広報や情報公開の推進，危機管理・安全管理並びに人権尊重・法令遵守の徹底などにより，経営・運営基盤の強化と公立大学法人としての社会的責任を果たすべく，関係の職務に全力で取り組みます。私が学長に選任された場合は，以上の基本方針の下，その職務に精励し，職責を誠実かつ真摯に全うすることを誓約します。　(3,087字)

別紙様式５（表面）

履　　歴　　書

氏　名	藤井　保（ふじい　たもつ）	生年月日	昭和 28 年[redacted]（67 歳）
住　所	[redacted]		

学　　歴	
年　月	事　　項
昭和 47 年 4 月	新潟大学理学部生物学科 入学
昭和 51 年 3 月	新潟大学理学部生物学科 卒業（理学士）
昭和 51 年 4 月	新潟大学大学院理学研究科生物学専攻修士課程 入学
昭和 54 年 3 月	新潟大学大学院理学研究科生物学専攻修士課程 修了（理学修士）
昭和 54 年 4 月	北海道大学大学院理学研究科動物学専攻博士後期課程 入学
昭和 57 年 3 月	北海道大学大学院理学研究科動物学専攻博士後期課程 単位取得満期退学

学　位・免　許・資　格	
年　月	事　　項
昭和 58 年 3 月	理学博士（北海道大学・第 1829 号）
昭和 54 年 3 月	高等学校教諭一級普通免許（新潟県教育委員会・昭 53 高一普第 70 号）

職　　歴	
年　月	事　　項
昭和 57 年 4 月	日本学術振興会奨励研究員（一般）（昭和 59 年 3 月まで）
昭和 59 年12月	琉球大学医学部医学科寄生虫学講座助手（平成元年 3 月まで）
平成 元 年 4 月	広島女子大学家政学部助教授（専任・免疫学・生物学担当）
平成 7 年 4 月	広島女子大学生活科学部助教授（同上）
平成 8 年 4 月	豪州（シドニー工科大学）に文部省在外研究員出張（平成 9 年 3 月まで）
平成 10 年 4 月	広島女子大学生活科学部教授（専任・免疫学・生物学担当）
平成 13 年 4 月	県立広島女子大学評議員（平成 17 年 3 月まで）
	県立広島女子大学全学教育主任（平成 15 年 3 月まで）
平成 15 年 4 月	県立広島女子大学教学部長（平成 21 年 3 月まで）
平成 17 年 4 月	県立広島大学人間文化学部教授（専任・生体防御学・生命科学担当）
	県立広島大学総合教育センター副センター長（平成 19 年 3 月まで）
平成 19 年 4 月	公立大学法人県立広島大学理事，県立広島大学副学長（教育・学生支援担当），県立広島大学総合教育センター長（平成 23 年 3 月まで）
平成 23 年 4 月	公立大学法人県立広島大学業務評価室長（現在に至る）
	県立広島大学学長補佐（現在に至る）
平成 24 年 4 月	公立大学法人県立広島大学監査室長（平成 29 年 3 月まで）
平成 29 年 4 月	県立広島大学学部等再編推進室長（現在に至る）
令和 2 年 4 月	県立広島大学地域創生学部地域創生学科教授（現在に至る）

別紙様式５（裏面）

主な教育研究業績（５件以内）	
年　　月	事　　項
	『著書』
昭和 60 年 7 月	1. 岩波講座 免疫科学 4『免疫系の発生と分化』(Robert A. Good 編，岩波書店・共著)
平成 30 年 8 月	2. 動物学の百科事典（日本動物学会編，丸善出版・編集・共著）
	『論文』
平成 4 年 1 月	3. Isolation and characterization of a protein from hagfish serum that is homologous to the third component of mammalian complement system. (Journal of Immunology, Vol.148, pp.117-123，共著)
平成 23 年 4 月	4. Identification and characterization of antimicrobial peptides from the skin of the endangered frog *Odorrana ishikawae*. (Peptides, Vol.32, pp. 670-676，共著)
平成 26 年 3 月	5. Hagfish C1q: Its unique binding property. (Developmental and Comparative Immunology, Vol.43, pp. 47-53，共著)

学会・社会における活動等	
年　　月	事　　項
平成 15 年 4 月	広島県高等教育機関協議会総合委員会委員（平成 18 年 3 月まで）
平成 16 年 4 月	広島県新県立大学設置準備委員会委員（平成 17 年 3 月まで）
平成 18 年 4 月	教育ネットワーク中国運営委員会委員（平成 24 年 3 月まで）
平成 18 年 8 月	日本比較免疫学会第 18 回学術集会会長（会場：県立広島大学）
平成 20 年10月	戦略的大学連携事業運営委員（平成 23 年 3 月まで，代表校：広島経済大学）
平成 26 年 5 月	独立行政法人大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価委員会専門委員（平成 29 年 4 月まで）
平成 27 年 3 月	日本動物学会編「動物学の百科事典」編集委員（平成 30 年 8 月まで）
令和 元 年 6 月	尾道市公立大学法人評価委員会委員（現在に至る）

賞　　罰	
年　　月	事　　項
	特記事項なし

その他特記すべき事項

・平成 23 年 4 月から公立大学法人県立広島大学業務評価室長として，平成 23 年度・29 年度受審大学機関別認証評価，並びに同選択評価（選択評価項目 B・地域貢献活動の状況）に係る受審対応を統括するとともに，毎年度の法人評価に係る実績報告・評価等の対応を統括。

・平成 28 年 4 月からの「公立大学法人県立広島大学学部・学科等再編検討委員会」及び平成 29 年 9 月からの「同　学部等再編推進委員会」の委員長として，学部等再編の審議を統括。

・平成 30 年 6 月から学校法人広島女学院 監事 兼職（現在に至る）。

上記のとおり相違ありません。

令和 2 年 12 月 25 日

氏　　名

藤井　保

※学長候補者選考の過程で，この履歴書は公表されます。